(社)日本原子力学会　標準委員会　原子燃料サイクル専門部会
第 42 回 ＬＬＷ処分安全評価分科会 議事録

1. 日時 2022 年 4 月 20 日(水) 9 時 00 分～11 時 00 分

2. 会議形態　Web 会議（Webex）

3. 出席者（順不同，敬称略）
（出席委員）佐々木（主査），山本（副主査），竹内（幹事），石田，大浦，小澤，坂井，島田，
菅谷，杉山，鈴木，中居，平井，宮本，村松，山岡（16 名）
（代理出席委員）福田（中瀬委員代理）（1 名）
（出席常時参加者）関口，中林（2 名）
（欠席委員）（0 名）
（欠席常時参加者）熊谷（1 名）
（傍聴者）（0 名）

４．配付資料
F16SC42-1　議事次第
F16SC42-2　第 41 回 LLW 処分安全評価分科会議事録（案）
F16SC42-3　原子燃料サイクル専門部会コメント対応案
F16SC42-4　低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法－中深度処分編－:20XX(案)
＜参考資料＞
参考資料 1　LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール
参考資料 2　第二種廃棄物埋設の廃棄物埋設地に関する審査ガイド案_資料 1
参考資料 3　中深度処分の廃棄物埋設地に関する審査ガイド（パブコメ）

5. 議事
a）出席者/資料確認
分科会事務局から，委員総数 17 名中，代理出席含め 17 名の出席があり，分科会の成立要件を満たしている旨報告があり，引き続き配布資料の確認が行われた。
b）前回（第 41 回）議事録確認
分科会事務局から，前回議事録である F16SC42-2 については既にメールで各委員に配布しているため，本日中にコメントがなければ学会に送付するとの説明があった。
c）LLW 処分安全評価分科会関連スケジュール
分科会事務局から，参考資料 1 を用いて LLW 処分安全評価分科会関連スケジュールの説明が行われた。本分科会で標準案について承認が得られた場合，次回専門部会（5/9）でコメント対応と審査ガイド対応，その次の標準委員会（6/1）で中間報告を計画している。上記のスケジュールで

も発行承認は最短で来年６月となり，途中大きなコメントがあればより遅れるとの説明があった。

d）専門部会コメント対応

中居委員から，専門部会でのコメントと対応をまとめた F16SC42-3 及び対応を行った標準案の F16SC42-4 を用いてコメント対応の説明が行われた。説明は前回分科会で対応が保留状態であったものが中心であった。編集上の内容を含む総数 104 項のコメント対応案が了承された。

主な質疑を以下に示す。

・コメント No.10 の対応で“できる”の表現を“可能である”と改めているのは最新の JIS Z8301 に従っているのか。

→従っている。最新の JIS では許容事項の表現について“…してもよい。”等を用い，“…できる。”は用いないとしている。また可能性・能力事項の表現としても“…可能である。”等を用い，“…できる。”は用いないとしている。

→“できる”も可能性・能力事項の表現として文の途中で使用することは新 JIS でも問題ない。

→“できる限り”等，文の途中のできるは残している。

・コメント No.97（解説表 1 で「要素」の中のどの部分に当たるか分かりにくい）の対応について詳しく。

→コメントに対する対応としては，安全評価手法に関する部分を太字ゴシックとした。加えて安全確保に直接関係する部分と間接的に寄与する部分をマークで分類した。

→直接/間接…の表現は断定的でよいか。

→“～寄与すると考えられる項目”とする。

e）標準案改定

中居委員及び杉山委員（附属書 P）から，標準案の F16SC42-4 を用いてコメント対応及び審査ガイド案への対応に関する説明が行われた。主な説明を以下に示す。

1） 標準本体

・「炉内等廃棄物」を削除した（対象拡大のため）。3 章等で出典の書きぶりを修正した。用語については５月中に他の標準との整合を調整予定である。

2） 解説

・コメント対応の他，用語を本体と合わせた。

3） 附属書 A

・参照資料を更新した。基本的に入手しやすい文献とした。放射線廃棄物ガイドブックについては 2020 年度版となっているが 2021 年度に修正予定。

4） 附属書 C

・1 サイクルは不適切だったので，1730 日とした。表については「○E+○○」の形式のままとした。（他の附属書も同様）

5） 附属書 E

・計算コードの例を追加した。

6） 附属書 J

・参考文献の対応を見直した。より新しい文献に更新しているが，古い文献にしか記載されていないものもあるため更新していないものもある。

7） 附属書 L

・アボガドロ数等について定義値を併記した。

8） 附属書 M,N

・2 月時点の審査ガイド案を基に改定した。本日決定予定の審査ガイドを確認し，必要に応じて反映する。

9） 附属書 P

・今回見直した表現のうち，P7 と P10 頁については“又は”を“,”に修正する。

主な質疑を以下に示す

・標準本体 1 頁について，コメント No.11 が反映されていないのでは。

→反映されていないので修正する。

・標準本体“3.13 自然事象”について，規制委員会資料からの引用だけではコメント No.14 が反映されていないのでは。埋設地の離隔や閉じ込め機能に影響を与えるのが自然事象ではないか。

→記載は規制委員会資料の用語解説に従った。

→その資料の 10 頁には「廃棄物埋設地の離隔や閉じ込め機能を損なう可能性のある自然事象」とあるのでこれを反映すべきかとも思ったが，用語解説に従ったのならそれで問題ない。

・“3.14 人為事象”も廃棄物埋設地の文言が出てこず，同様の指摘が可能である。

→廃棄物埋設地に関連するのは自明であるため，あえて記載する必要はないと考える。

・全体的に“移行”を“移動”に改めているが，附属書 J の 7 頁（図 J.4 含む）には“移行”が残っている。他の標準も“移行”を“移動”にするのか。

→「移行率」等は残す予定だが，他は見直す予定。附属書 J はチェックが漏れていたので確認する。

→埋設後管理標準では移動にしている。

→8 頁にも移行は残っている。

→終点への移動は移行でも問題ないと考えられる。動植物への移行は蓄積もあるので移行で良いと考えている。

f）専門委員会で中間報告を行う件についての決議

WEB 上での決議の結果，代理出席者を含む出席委員 17 名の全員賛成で決議された。

g）専門委員会議事次第等

竹内幹事より， 5/9 の専門部会で中間報告（コメント回答及び審査ガイド対応）を行う予定である旨の説明があった。

また，5 月 12 日に埋設後管理，埋設施設検査方法の各分科会の三役及び主な執筆担当者における標準作成ガイドライン 2020 への対応に関する調整会議が行われる旨の説明があった。

h）次回分科会等

次回分科会は，7 月 6 日（水）13：30～15：30 を候補とする。

以　上